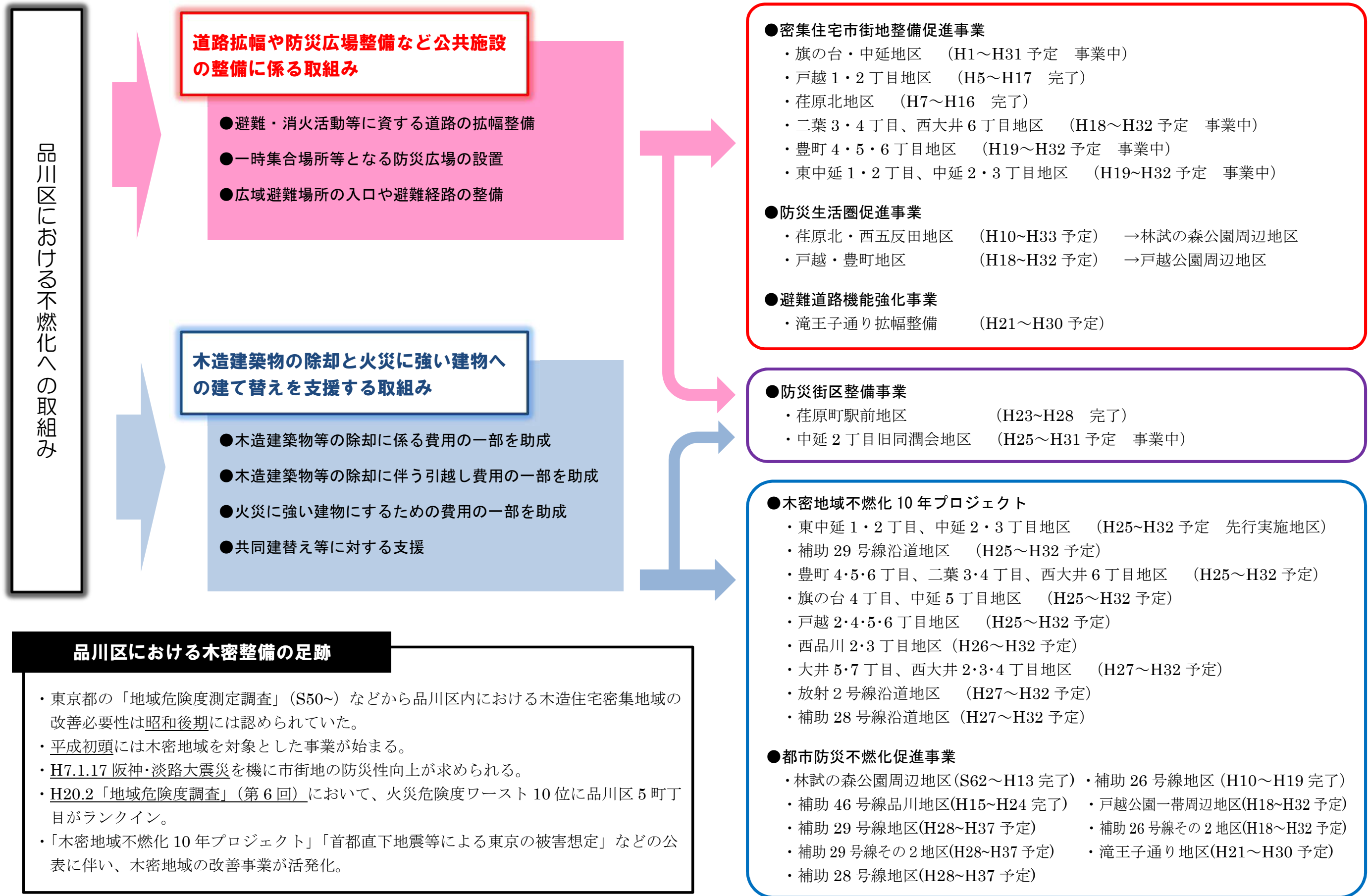


# 都市型災害について（木密地域における燃えないまちづくり）



品川区における不燃化への取組み

## 道路拡幅や防災広場整備など公共施設の整備に係る取組み

- 避難・消火活動等に資する道路の拡幅整備
- 一時集合場所等となる防災広場の設置
- 広域避難場所の入口や避難経路の整備

## 木造建築物の除却と火災に強い建物への建て替えを支援する取組み

- 木造建築物等の除却に係る費用の一部を助成
- 木造建築物等の除却に伴う引越し費用の一部を助成
- 火災に強い建物にするための費用の一部を助成
- 共同建替え等に対する支援

- 密集住宅市街地整備促進事業
  - ・旗の台・中延地区（H1～H31 予定 事業中）
  - ・戸越1・2丁目地区（H5～H17 完了）
  - ・荏原北地区（H7～H16 完了）
  - ・二葉3・4丁目、西大井6丁目地区（H18～H32 予定 事業中）
  - ・豊町4・5・6丁目地区（H19～H32 予定 事業中）
  - ・東中延1・2丁目、中延2・3丁目地区（H19～H32 予定 事業中）
- 防災生活圏促進事業
  - ・荏原北・西五反田地区（H10～H33 予定） → 林試の森公園周辺地区
  - ・戸越・豊町地区（H18～H32 予定） → 戸越公園周辺地区
- 避難道路機能強化事業
  - ・滝王子通り拡幅整備（H21～H30 予定）

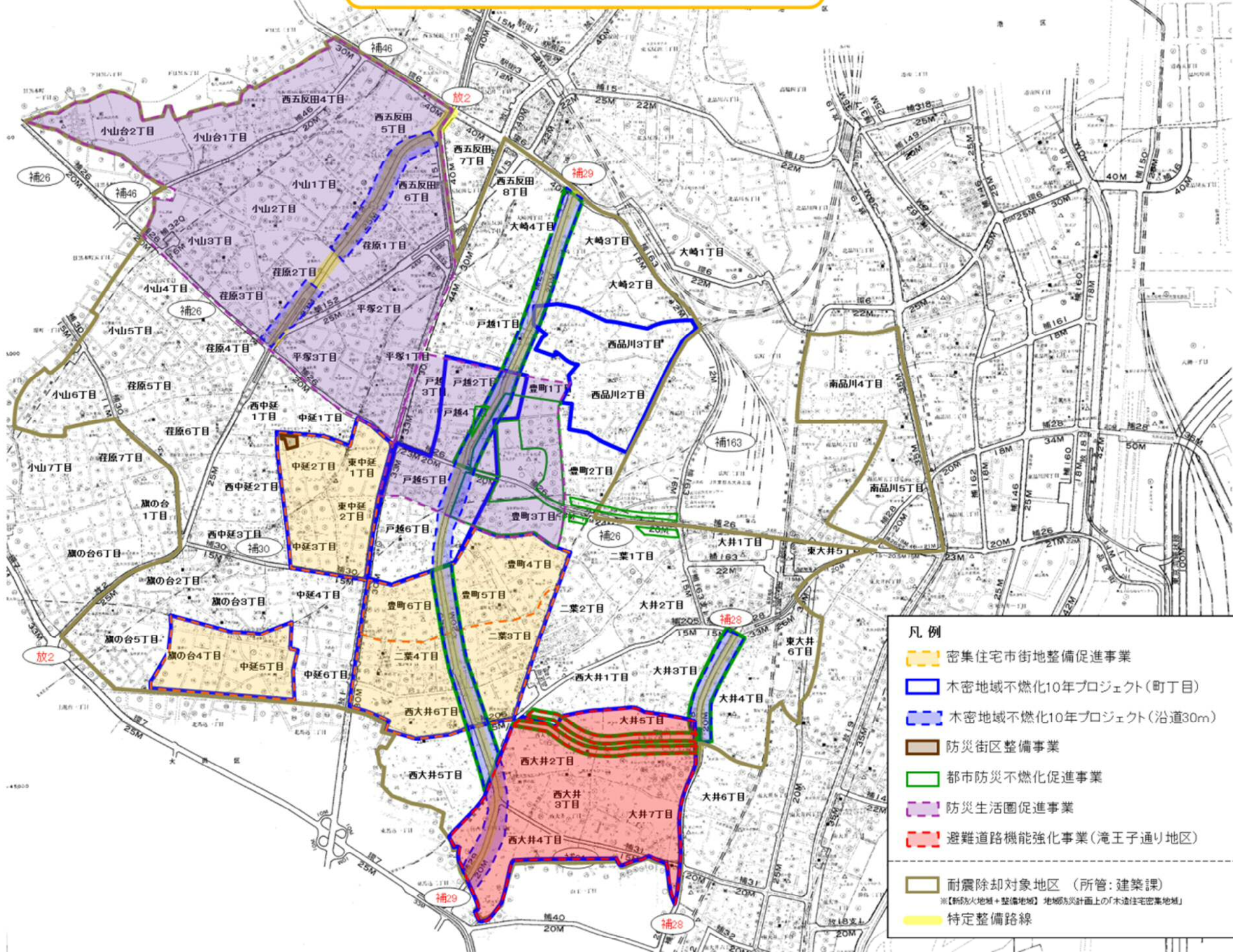
- 防災街区整備事業
  - ・荏原町駅前地区（H23～H28 完了）
  - ・中延2丁目旧同潤会地区（H25～H31 予定 事業中）

- 木密地域不燃化10年プロジェクト
  - ・東中延1・2丁目、中延2・3丁目地区（H25～H32 予定 先行実施地区）
  - ・補助29号線沿道地区（H25～H32 予定）
  - ・豊町4・5・6丁目、二葉3・4丁目、西大井6丁目地区（H25～H32 予定）
  - ・旗の台4丁目、中延5丁目地区（H25～H32 予定）
  - ・戸越2・4・5・6丁目地区（H25～H32 予定）
  - ・西品川2・3丁目地区（H26～H32 予定）
  - ・大井5・7丁目、西大井2・3・4丁目地区（H27～H32 予定）
  - ・放射2号線沿道地区（H27～H32 予定）
  - ・補助28号線沿道地区（H27～H32 予定）
- 都市防災不燃化促進事業
  - ・林試の森公園周辺地区(S62～H13 完了)
  - ・補助26号線地区(H10～H19 完了)
  - ・補助46号線品川地区(H15～H24 完了)
  - ・補助29号線地区(H28～H37 予定)
  - ・補助29号線その2地区(H28～H37 予定)
  - ・補助28号線地区(H28～H37 予定)
  - ・戸越公園一帯周辺地区(H18～H32 予定)
  - ・補助26号線その2地区(H18～H32 予定)
  - ・滝王子通り地区(H21～H30 予定)

## 品川区における木密整備の足跡

- ・東京都の「地域危険度測定調査」(S50～)などから品川区内における木造住宅密集地域の改善必要性は昭和後期には認められていた。
- ・平成初頭には木密地域を対象とした事業が始まる。
- ・H7.1.17 阪神・淡路大震災を機に市街地の防災性向上が求められる。
- ・H20.2「地域危険度調査」(第6回)において、火災危険度ワースト10位に品川区5町丁目がランクイン。
- ・「木密地域不燃化10年プロジェクト」「首都直下地震等による東京の被害想定」などの公表に伴い、木密地域の改善事業が活発化。

# 木密整備推進課 事業実施箇所図



## 都市型災害について（水害対策）

### 1 品川区内の浸水被害と対策事業の成果

目黒川沿いの五反田一帯や立会川周辺、戸越銀座一帯は周囲に比べ地盤が低い  
ため、過去多くの水害が発生し、特に平成11年8月29日の集中豪雨（時間最大  
77ミリ）により約2,800棟の浸水被害が発生した。

一方、区と都は様々な浸水対策を進め、平成25年7月23日の集中豪雨（時間  
最大74ミリ）では約60棟の浸水被害が発生したが、以前と比べ大幅に被害は軽  
減した。

品川区浸水被害箇所図



### 2 浸水対策事業

#### 2.1 ハード対策（河川、下水道の整備）

河川の洪水調節池や下水道の貯留管等の「貯留施設による対策」と、下水道雨  
水幹線等の「バイパス管による対策」により、浸水対策を実施している。

このうち区は、昭和61年より下水道事業を受託し、平成12年からは「雨水整  
備クイックプラン」を都と連携して進めるなど、対策を積極的に進めている。

○区内の主な浸水対策施設

浸水被害箇所	貯留施設による対策	バイパス管による対策
目黒川流域	目黒川荏原調整池（河川） 目黒川左岸調整池	目黒川雨水バイパス管 第1～第3ルート 東品川幹線※ 目黒川右岸バイパス管※ 目黒川右岸雨水幹線※
戸越・西品川地区	戸越幹線貯留管※ 西品川公園雨水調整池※	第二戸越幹線（施工中）
立会川流域	荏原雨水調整池 鈴ヶ森公園雨水調整池※	立会川幹線バイパス管 第二立会川幹線※ 立会川雨水放流管（施工中） 浜川幹線（施工済・未稼働）

太字：区施工の下水道施設 細字：都施工の浸水対策施設 ※平成12年以降に稼働した施設

#### 2.2 ソフト対策（情報発信・水防訓練等）

水害に備えるソフト対策としては、浸水ハザードマップの作成・公表や、目黒  
川・立会川におけるリアルタイムでの水位情報の提供など行っている。

また、水防活動能力の向上を図るため、消防・町会など関係機関との合同水防  
訓練等を実施している。



品川区浸水ハザードマップ



河川水位情報



合同水防訓練

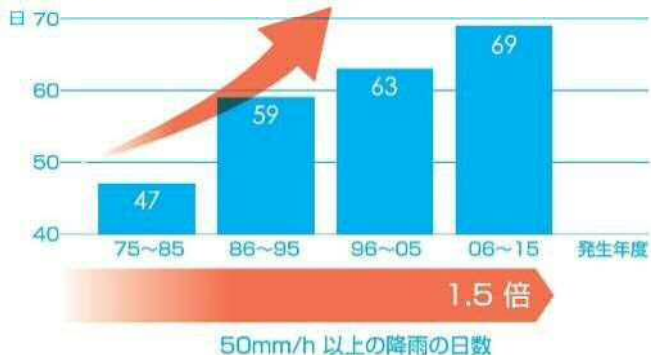
# 水害のない品川区をめざして



# 水害のない品川区を目指して

近年、地球温暖化などの気候変動により、大雨の頻度が増加したり、台風が激化していると考えられています。

品川区ではこうした災害に備えて、東京都と連携し、水害に強いまちづくりのための様々な取り組みを行っています。



## 品川区の水害

### お主な浸水被害箇所

目黒川流域、戸越・西品川、立会川流域の3区域で水害が多発しています。





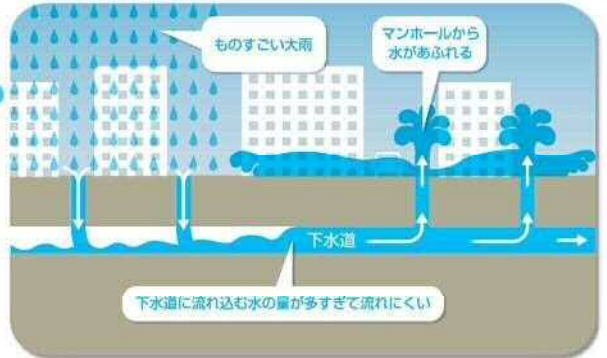
一度にたくさんの雨は無理だな～



品川区の水害は、下水道から水があふれて起きる水害の方がずっと多いんだよ。



ボクが流しきれなかった雨水がマンホールからあふれてしまうんだ。



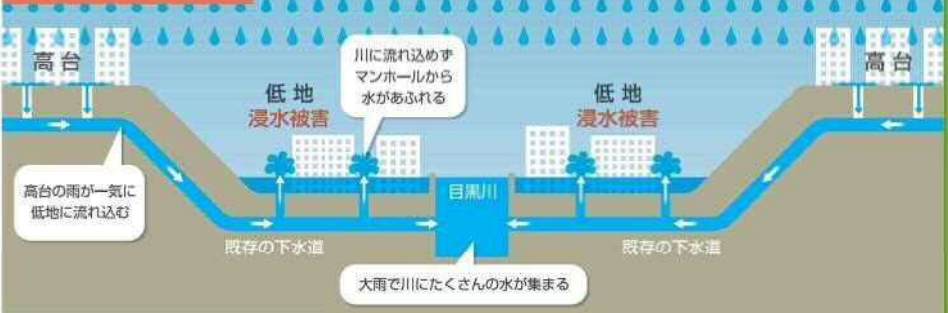
## 品川区で発生する水害の特徴

### 目黒川流域

目黒川流域では、高台地区から排水能力を超える大量の雨水が、低地である五反田駅一帯に集中し、浸水被害が多発していました。



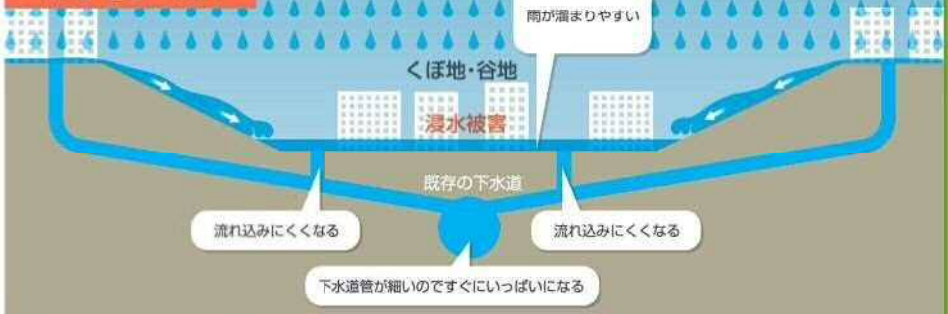
#### 高台から低地への集中



### 戸越・西品川

戸越・西品川地区は、周囲と比較して地盤が低いため、雨水が集まりやすく大雨の際に、浸水被害が多発していました。

#### <ほ地・谷地への集中



### 立会川流域

立会川は川幅が狭く、大量の降雨による河川の水位上昇や下水道管の能力不足により、浸水被害が多発していました。



#### 立会川の能力不足

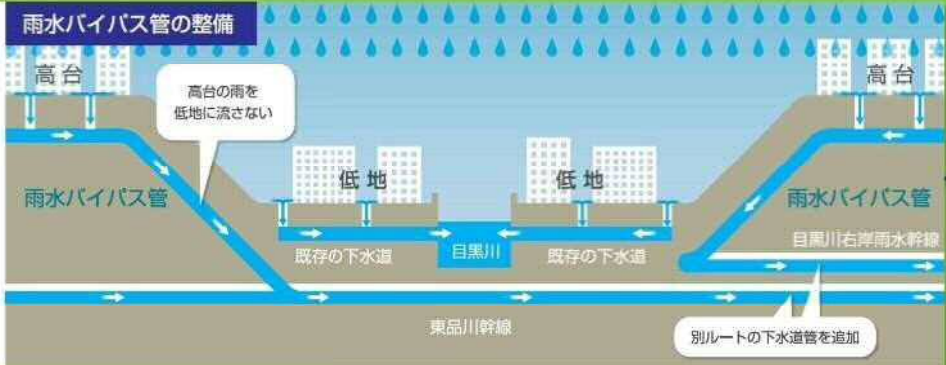




## 品川区の浸水対策

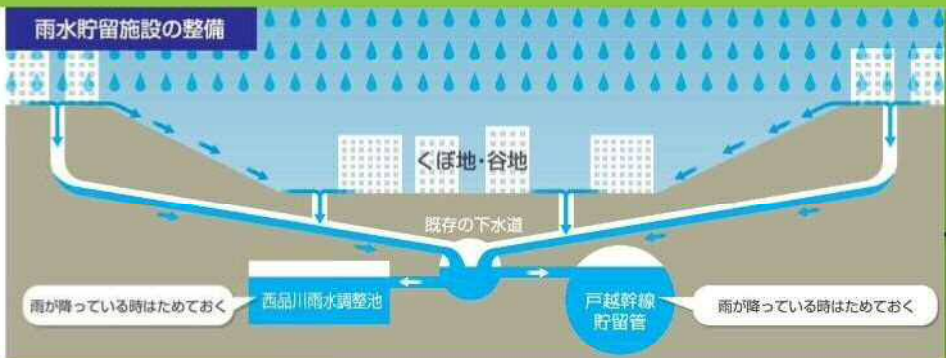
### 目黒川流域

高台地区からの排水能力を高めるため、既存の下水道とは別系統のバイパス管を整備し、低地の浸水被害を低減しました。



### 戸越・西品川

既存の下水道の排水能力を超える雨水を一時的に貯める貯留施設(雨水調整池と貯留管)を整備し、浸水被害を低減しました。貯めた雨水は、晴天時に排水します。



### 立会川流域

立会川および立会川幹線の排水能力を高めるため、別系統の地下河川(第二立会川幹線、バイパス管)を整備し流域の浸水被害を低減しました。





## 水害対策事業の成果

品川区や東京都が実施した下水道施設の整備や河川施設の整備により浸水被害は大幅に減少しています。



## 浸水対策マップ

- 品川区が実施した事業
- 幹線 汚水や雨水を水再生センター・ポンプ所へ送る大きな下水道管
- 浸水対策幹線 雨水の流下能力を増強するための幹線
- 雨水バイパス管 既設の下水道管の汚水や雨水の流下能力を補うため、新たに設置した下水道管
- 調節池・調整池 雨水を一時的にためる施設(調節池:川の水を貯留、調整池:内水を貯留)
- 貯留管 雨水を一時的に貯留する管
- P ポンプ所 低い場所の下水道管の雨水を汲上げて放流する施設
- - - 建設中





# 身近な浸水対策

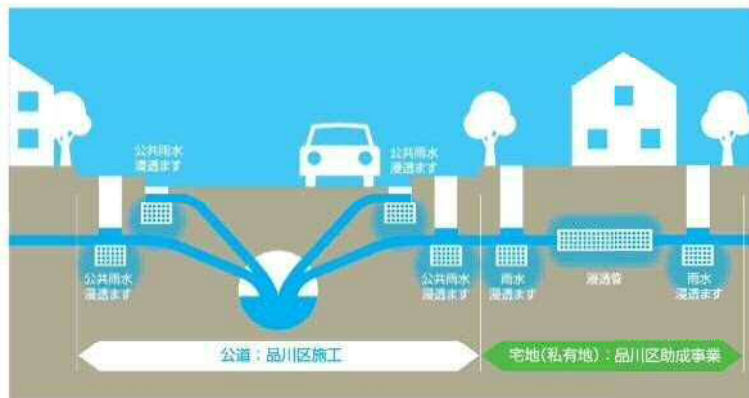
区民の皆様も、浸水対策に協力していただくことができます。  
品川区では下記の場合に対し、費用の一部助成を行っています。

## 宅地内雨水浸透施設設置工事助成金事業

浸透させる

宅地内に浸透施設を設置する費用の一部を区が助成。

コンクリート化やアスファルト舗装など都市化が進み、地下に浸み込まない雨水は一気に下水道に流れ込み、浸水被害の発生原因となります。そこで、下水道管への雨水流入を抑制するため、雨水を地下へ浸透させる雨水浸透柵の設置に助成制度を設けています。



## 防水板設置工事助成事業

防ぐ

住宅・店舗・事務所棟の出入り口に防水板を設置する区民等に対し、費用の一部を助成。

玄関や車庫の出入り口は、防水板を設置することで水の浸入を防ぐことができます。そこで、品川区では、防水板の設置に助成制度を設けています。



## 雨水利用タンク設置工事助成事業

貯める

雨水利用タンクの設置助成を実施。

雨水を貯めると、下水道管への雨水流入が抑制され、浸水被害の軽減につながります。貯めた雨水は、植物の水遣りや、災害時の備えとしても利用できます。品川区では、購入設置費用の一部を助成しています。



個人でできることも  
いろいろあるんだね。  
ボクも助かるよ！

